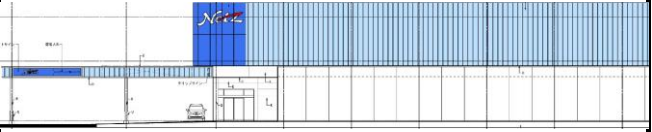


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	ネットヨタ熊本本社改築工事	階数	地上2F	
建設地	熊本県熊本市東区新南部6丁目83-	構造	S造	
用途地域	準工業地域、二種中高層住居、指定	平均居住人員	66 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	2,745 時間/年	
建物用途	事務所、物販店、	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2017年4月 竣工	評価の実施日	2015年9月29日	
敷地面積	7,096 m ²	作成者	柳田 果李	
建築面積	1,446 m ²	確認日	2015年10月20日	
延床面積	2,514 m ²	確認者	吉永 拓郎	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)					
★★★★★		BEE = 1.0		■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$	
100 50 0 0 50 100 3.0 1.5 BEE=1.0 43 40 S A B⁺ B⁻ C 環境品質 Q 環境負荷 L		■ 環境効率評価基準			
ランク	ランク表示	評価	判定値		
			BEE値	Q値	
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上	
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—	
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—	
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—	
C	★	劣る	0.5未満	—	
■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能(ランク表示)		排出率		■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能評価基準	
☆☆☆☆☆		89%			
				判定値(排出率)	ランク表示
				30%以下	☆☆☆☆☆
				30%超60%以下	☆☆☆☆
				60%超80%以下	☆☆☆
				80%超100%以下	☆☆
				100%超	☆

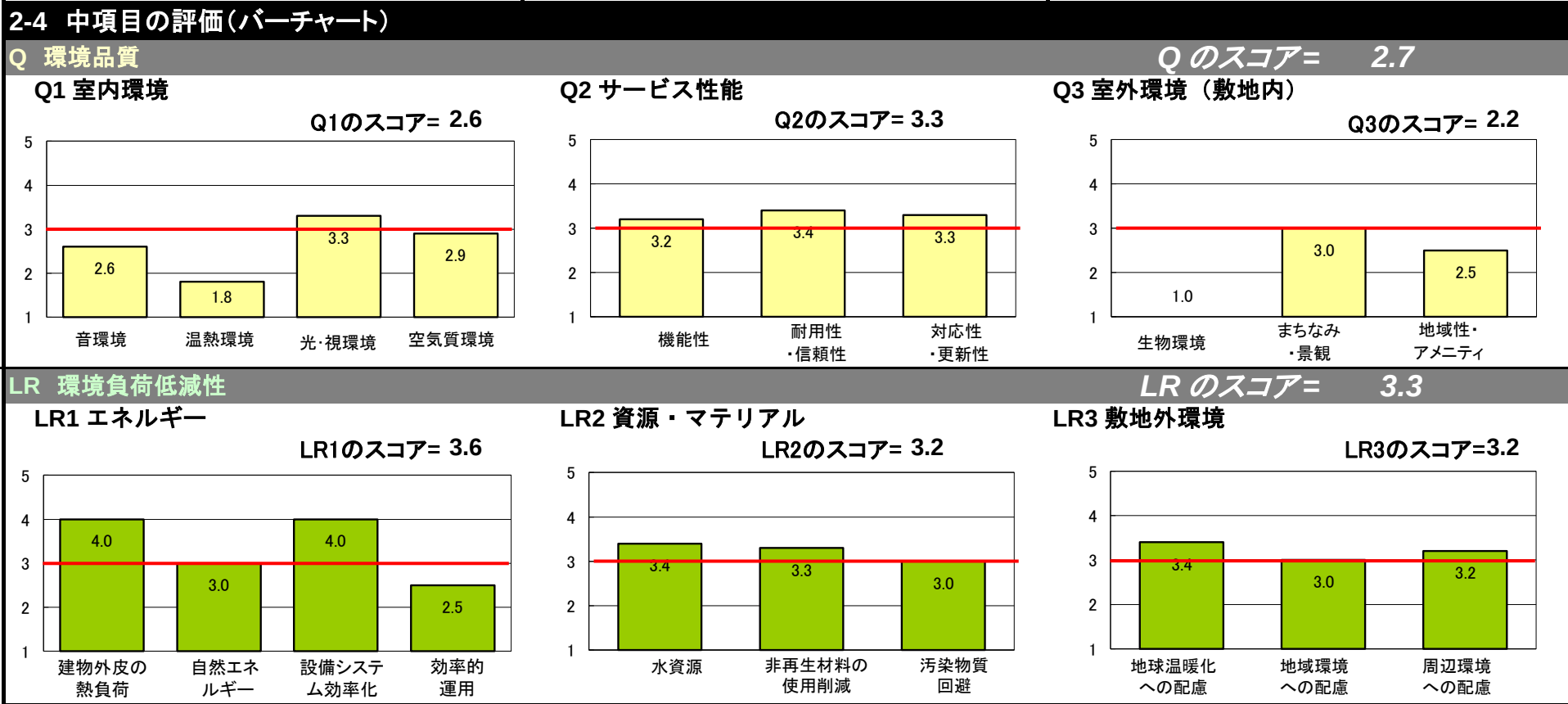
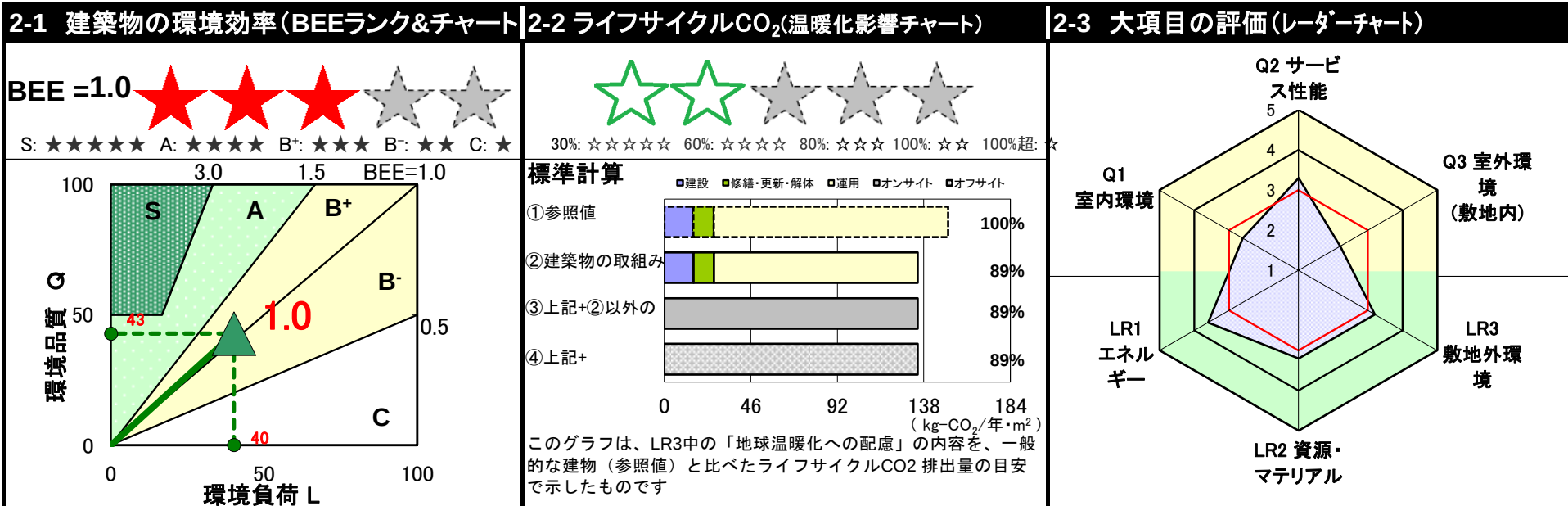
2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点												
   		82												
	評価点	■熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	84.2	<table><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上	    	80点以上100点未満	   	60点以上80点未満	  	40点以上60点未満	 	40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上	    													
80点以上100点未満	   													
60点以上80点未満	  													
40点以上60点未満	 													
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	77.5													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	85.7													
【重点事項4】 循環型社会の実現	80.2													
※評価点は、100点以上が推奨です。														

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ネットヨタ熊本本社改築工事	階数	地上2F
建設地	熊本県熊本市東区新南部6丁目83-	構造	S造
用途地域	準工業地域、二種中高層住居、指定	平均居住人員	66 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,745 時間/年
建物用途	事務所,物販店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 竣工	評価の実施日	2015年9月29日
敷地面積	7,096 m ²	作成者	柳田 果李
建築面積	1,446 m ²	確認日	2015年10月20日
延床面積	2,514 m ²	確認者	吉永 拓郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 ネットヨタ熊本本社改築工事		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)			
スコアシート 実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質						2.7	
Q1 室内環境			0.40		-	2.6	
1 音環境		2.6	0.15	-	-	2.6	
1.1 騒音		店舗:50dB、事務所:45dB					
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		1.0	0.83	-	-		
2 界壁遮音性能		1.0	0.17	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-		
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境		1.8	0.35	-	-	1.8	
2.1 室温制御		1.4	0.50	-	-		
1 室温		1.0	0.44	-	-		
2 外皮性能		3.0	0.21	-	-		
3 ゾーン別制御性		1.0	0.35	-	-		
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境		3.3	0.25	-	-	3.3	
3.1 昼光利用		3.5	0.41	-	-		
1 昼光率		5.0	0.26	-	-		
2 方位別開口		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		3.0	0.74	-	-		
3.2 グレア対策		4.0	0.13	-	-		
1 昼光制御		4.0	1.00	-	-		
3.3 照度		3.0	0.07	-	-		
3.4 照明制御		3.0	0.39	-	-		
4 空気質環境		2.9	0.25	-	-	2.9	
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		3.0	1.00	-	-		
2 アスベスト対策		-	-	-	-		
4.2 換気		2.3	0.30	-	-		
1 換気量		3.0	0.42	-	-		
2 自然換気性能		4.0	0.16	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.42	-	-		
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3	
1 機能性		3.2	0.40	-	-	3.2	
1.1 機能性・使いやすさ		3.2	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		1.0	0.15	-	-		
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.15	-	-		
3 バリアフリー計画		4.0	0.71	-	-		
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		5.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33	-	-		
3 内装計画		3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30	-	-	3.4	
2.1 耐震・免震		3.8	0.50	-	-		
1 耐震性		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-		

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.6	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		2.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	店舗:5.675m、事務所:4.45m	5.0	0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	店舗:0.1≦0.16<0.3、事務所:0.037<0.1	4.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性				2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m :0.77	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			0.87 0.83	4.0	0.50	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI _m 0.87≧0.9	4.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用				2.5	0.20	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水		グリーン購入法適用品	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		—	2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		軽鉄下地	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			省エネ設備の導入	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0		0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減	3.0		0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制	3.0		0.25	-	-		
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	3.0		1.00	-	-		
2	振動	-		-	-	-		
3	悪臭	-		-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0		0.40	-	-		
1	風害の抑制	3.0		0.70	-	-		
2	砂塵の抑制	-		-	-	-		
3	日照障害の抑制	3.0		0.30	-	-		
3.3 光害の抑制		4.4		0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たす		5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・ 前面道路の歩道面からのセットバック。
- ・ 2階建てプラントとし、建物高さを抑制
- ・ 歩道からの建物の圧迫感に配慮し、ショールーム窓はフレームの無いリブガラス採用

Q1 室内環境

- ・ F☆☆☆☆建材使用
- ・ 喫煙ルームにて分煙・
- ・ 防音壁によるプライバシー、静かな環境づくり
- ・ コミュニケーションスペース、食堂など社員対するES向上

Q2 サービス性能

- ・ 災害に対する備え 非常用の電源 給水の確保 汚水排水の非常用汚水貯留槽設置
- ・ 備蓄倉庫設置

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 空調室外機は、すべて屋上に設置し周辺への環境に配慮した。

LR1 エネルギー

- ・ 空調換気扇の積極的利用
- ・ 冷暖房のある部屋の換気排気をトイレなどに再利用
- ・ ペアガラスによる断熱性能向上
- ・ 照明壁による日射の抑制
- ・ LED照明の使用

LR2 資源・マテリアル

- ・ ノンフロン断熱材

LR3 敷地外環境

- ・ 東側市道面をセットバックし、道路交差点の視界を良くすることによる交通事故防止に配慮

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 ネットヨタ熊本本社改築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		82
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				84.2	0.40	33.68
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.07			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.06			
Q1-3.2.1	昼光制御	4.0	0.02			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				77.5	0.20	15.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85.7	0.20	17.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				80.2	0.20	16.04
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数